



令和 5 年(2023 年)1 月 16 日

埋木舎^{うもれぎのや}ご当主のおおくぼはるお
「彦根藩大久保家文書」^{ひこねはんおおくぼけもんじょ}(5,832 件)が寄贈されました
彦根市長より大久保氏への感謝状の贈呈式を行います

令和 4 年(2022 年)12 月、埋木舎(彦根市尾末町)のご当主である大久保治男氏から彦根市(彦根城博物館)へ「彦根藩大久保家文書」をご寄贈いただきました。あわせて、感謝状の贈呈式を行いますのでお知らせします。つきましては、広報についてご高配を賜りますようお願い申し上げます。

記

1 資料の寄贈者

大久保治男氏

昭和 9 年 5 月 9 日生(満 88 歳)

彦根藩士大久保孫左衛門家の子孫

埋木舎当主

駒澤大学名誉教授(専門は日本法制史)

東京都文京区在住



大久保治男氏

(平成 26 年瑞宝中綬賞受賞時)

*埋木舎は、井伊家 13 代直弼^{なおすけ}が青年時代を過ごした井伊家の庶子屋敷です。明治 4 年(1871)、当時の大久保家当主であった員好^{かずよし}が、井伊家から埋木舎を拝領しました。以降、大久保家は、埋木舎伝来の古文書を守り続け、平成 3 年(1991)からは修復を終えた埋木舎の一般公開を行っています。

2 寄贈資料の概要

資料名：彦根藩大久保家文書

件数：5,832 件

年代：江戸時代～昭和戦前期

伝来：

旧彦根藩士である大久保孫左衛門家に伝来した古文書です。大久保孫左衛門家は、大久保新右衛門家^{しんえもん}からの分家で、初代員元^{かずもと}が貞享 3 年(1686)に井伊家 4 代直興^{なおおき}の小姓に召し出されて以後、6 代に渡り彦根藩に仕えました。明治以後も、6 代目員好^{かずよし}が明



治 35 年(1902)まで、その子の員^{かずおみ}臣が昭和 10 年(1935)まで、井伊家の家職を務めました。員好は、藩から焼却処分を命じられた井伊直弼関連文書を明治時代半ばまで密かに守り、同文書が現在に伝来するうえで大きな貢献を果たした人物としても知られています。

内 容：主たる内容は以下の①～⑤の通りです。

①同家当主が務めた役職に伴うもの

5代目員^{かずやす}毗や6代目員好が務めた、井伊家当主やその一族の側近^{そばやく}くに仕える側役や小納戸^{こなんどやく}役に関する文書など。側役の務め方の心得書や、側役の勤務記録、側役宛の文書からは、井伊家当主の動向や井伊家内部の詳細を知ることができます。

②武士としての教養や文芸に関するもの

軍略や城攻めなどに関する兵法書など。また、能の喜^{きた}多流の宗家である喜^{しちだ}多七^{しちだ}太^た夫^ふから謡^{うた}と能を相伝する際の起請文の他、和歌・短歌の詠草など。

③明治から昭和戦前期にかけての日記や帳簿

井伊家の彦根における出先機関である千^{せん}松^{しょう}館^{かん}(彦根市松原町)での勤務記録など。計 50 冊。「井伊家伝来古文書」(近代文書)では記録が手薄な明治 10 年代～20 年代の記録は貴重です。なお、これらの日記のうち 16 冊は、彦根藩主の江戸での勤務記録や藩主側近の業務日記等の裏面を再利用して書かれており、江戸時代の情報も知ることができる、重要なものです。

④小^お沢^{さわ}作^{さく}左^さ衛^ゑ門^{もん}家関係文書

彦根藩士小沢作左衛門作成文書の下書や、同人を宛先とする書状など、本来であれば小沢家に残ると考えられる文書が約 80 通残っています。なぜこれらの文書が大久保家に伝来したのかは不明です。

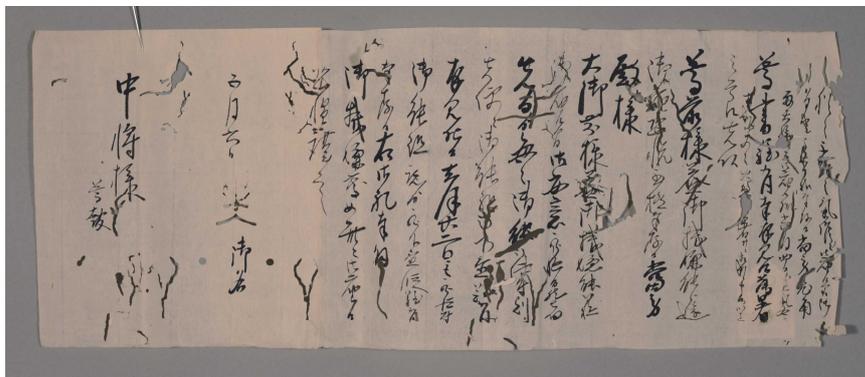
⑤大久保新右衛門家関係文書

当家の本家である新右衛門家は、天保 4 年(1833)に 12 代目熊二郎が彦根を出奔し、家名断絶となっています。そのため孫左衛門家に引き継がれたのか詳細は不明ですが、本来であれば新右衛門家に伝わるはずの新右衛門家当主宛の書状や同家の過去帳なども残っています。

伝来経緯の不明なものも含め、「彦根藩大久保家文書」は、質・量ともに充実しており、「彦根藩井伊家文書」と並び、井伊家および彦根藩の歴史を研究する上で一級の価値を有する古文書です。

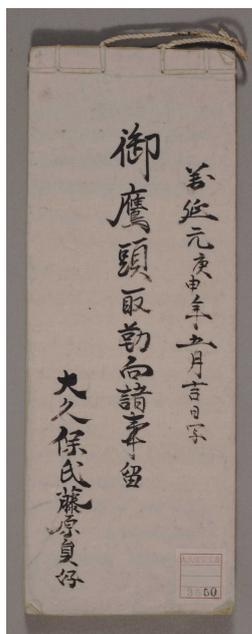


寄贈資料(一部)の写真



い なおもと井伊直元書状下書 なおなか井伊直中宛(年未詳 5月6日付)

井伊家 11 代直中の実子で 12 代直亮の世継ぎとして江戸にあった直元の手紙の下書。当時、直中は藩主を退任・隠居し、彦根で暮らしていました。この手紙では、能の番組が直中から送られてきたことに対し礼を述べています。大久保家 5 代目貞毗かづやすが直元の側近を務めた際に、手紙の作成に関わり、伝来したものと考えられます。



お たかとうどりつとめむきしよ御鷹頭取 勤向諸事留(万延元年 [1860] 5月写)

鷹頭取役は、藩主側近が務める、彦根藩主による鷹狩りを統括した役職です。藩主が所有する鷹を訓練する鷹役(鷹匠)や、鷹の餌を管理する餌割役などの役人を差配しました。大久保家 6 代員好かづよしが井伊家 14 代直憲のもとで鷹頭取を務めた際に書き写したと考えられます。井伊家における鷹狩りに関わった人たちの具体的な役割や動きを知ることができる貴重な資料です。



3 寄贈を受けた日

令和4年(2022年)12月13日

4 感謝状贈呈式の日時および場所

(1)日時：令和5年(2023年)1月25日(水)13時30分～14時30分

(2)場所：彦根城博物館(彦根市金亀町1番1号)講堂

(3)次第：①13時30分～14時

感謝状贈呈【和田裕行市長から大久保治男氏へ感謝状の贈呈】

出席者 大久保治男氏、和田裕行市長、井伊岳夫彦根城博物館長

②14時～14時30分

インタビュー等取材

出席者 大久保治男氏、井伊岳夫彦根城博物館長

(4)その他：

当日、取材で当館へ車でお越しの際は、黒門からお入りいただき、博物館裏の来客用駐車場にお停めください。黒門の前に車止めが置いてありますが、一時的に移動させてお通りください。

※令和5年1月1日(日)より、「彦根藩大久保家文書」の受贈を記念して、お披露目のためにその一部をコーナー展示として公開しています。会場は当館の展示室6、会期は2月7日(火)までです。感謝状贈呈式当日も展示していますので、あわせてご覧ください。

問い合わせ先

彦根城博物館 学芸史料課

担当：竹内 光久・荒田 雄市

電話：0749-22-6100

FAX：0749-22-6520